

【 園の目標及び計画について 】

1. 教育保育目標

◎生きる力の基礎「心情・意欲・態度」を育成する

教育・「健康」「人間関係」「言葉」「環境」「表現」各領域において様々な体験を積み重ね、相互に関連しながら具体的な活動を展開する。

保育・・○十分に擁護の行き届いた環境の下に、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を満たし、生命の保持及び情緒の安定を図る。

○健康・安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、健全な心身の基礎を育てる。

2. 具体的な目標 及び 計画

目標	計画
1. 一人ひとりが快適に、かつ、健康安全にこども園での生活を楽しみ、安心できる関係や環境の下で思いや考えを自分なりに表現する意欲を育て、身近な人と過ごす喜びや関わる力、豊かな感性や創造性を養っていくように努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲の豊かな自然を取り入れた環境の下で、健康な心と体を育て、主体的な活動と体験を通して学び、考え、行動し、人と関わる力を育てていく。 ・園内や周辺の安心、安全な環境づくりや感染症に対しての衛生管理に努め、衛生委員会等で職員の連携を図る。
2. 友だちや保育者、地域の人々と親しみ、触れ合う中で社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な体験を重ねる中で、身近な人や地域の方々との様々な関わり方に気づき、お互いの思いや考えを共有、共感したりする中で思いやりの心を育てていく。 ・保育ボランティアさんや地域の方との交流を通し、親しみや感謝の気持ちを養う。 ・進んで挨拶をしようとする気持ちを育てる。
3. 地域の子育て支援の拠点としてのこども園の機能を活かし、子育ての喜びを共に感じ、保護者の自己決定を尊重して子どもの育ちを見守っていく関係を築いていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援事業の『かんがるうはうす』や『園開放』で地域の親子への支援を行ったり、地域への子育て通信の配布を通し相談の窓口となるように取り組む。 ・毎日の送迎時や懇談会等で、保護者の方々の子育てに対する悩みや発達に関する悩み等を共有し、共に子育てをしている安心感や信頼感を持てるように努める。
4. 小学校や支援施設や他の関連機関との連携を図り、情報共有及び相互理解を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連絡協議会や坂中校区ネットワーク会議に参加して連携を図っていく。また、放課後児童クラブ（スマイルクラブ）を通して小学校との相互理解を図っていく。 ・療育施設等の関連施設とのケース会議や施設訪問など行い情報交換に努める。
5. 園内研修において、各クラス年間のテーマや目標を定め、年間計画を作成して1年を通して実践し、各クラス担任が主体的に取り組んでいく保育を園全体で共有し、実践方法や内容における気づきを学び合っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスで決めた年間のテーマを意識した保育を主体的に継続的に行っていき、1年を通して行っていく保育の在り方を職員で学び合い、保育・教育の質の向上に努める。 ・月1,2回見せ合う保育を実施し、学びの場として振り返りや意見交換をして、保育の質の向上に努める。

3. 達成及び取り組み状況・結果

項目	結果	取り組み状況
<p>1. 一人ひとりが快適に、かつ、健康安全に子ども園での生活を楽しみ、安心できる関係や環境の下で思いや考えを自分なりに表現する意欲を育て、身近な人と過ごす喜びや関わる力、豊かな感性や創造性を養っていくように努める。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・安心して園生活を送れるように、園児や保護者の方に笑顔で接し、挨拶をすることを心掛けて、話しやすい雰囲気をつくるようにした。園児との関わりの中で、子どもの要求や思いを安心して保育者や友だちに伝えられる関係を築いていき、保護者とも子どもの成長を喜び合える関係を築いていけるように努めている。また、育児の悩みや相談に応じ、子ども一人ひとりが健やかな成長していけるように、保護者と連携を取りながら保育を進めている。 ・感染症が出た場合には、感染拡大防止対策で、消毒、換気、手指消毒、検温、個人用タオルの使用を控える等を徹底し衛生管理に努めた。また、感染症情報をルクミーや貼り紙等で知らせ注意喚起をした。感染症の状況を見て行事の持ち方や保育の進め方をその都度考えていくようにしている。 ・クラスにおいて、遊具などのフックやネジが外れていたり、それを担任が置き忘れてたり紛失する事案があった。再度環境を見直し、他の職員と連携を取り、再発防止に努めている。 ・食物アレルギー時に誤配・誤食のヒヤリハットが同じクラスで多く見られる。原因を追究し、改善をしているが、再発してしまう。毎日の検食の際、検食者がクッキングとアレルギー児のいるクラスに、確認作業をすることにした。いろいろな手立てを講じながら、職員一人ひとりのアレルギーに対する知識を高め、人的ミスをなくしていく。 ・熱性けいれんの既往歴がある園児が発熱した際、職員がそれを把握していなかったことと、看護師との連携不足で座薬を入れ忘れていた。けいれんを起こすことはなかったが、座薬を預っているにも関わらず、適切な処置がされなかったことを重く受け止めている。 ・保育 ICT サービスのルクミーでおたより帳記入をしているが、操作が慣れず、音声で文字化されて送信されてしまい保護者が戸惑う事案もあった。使い方に気をつけ再発防止をしていく。 ・ヒヤリハットや事故報告を衛生委員会で報告し、産業医より助言をいただき今後活かしていく。 ・大分東署の協力のもと不審者訓練を行い、初動動作やさすまたの使い方を指導していただき、園児に向けても話をしていた。引き続き防犯対策に努めていきたい。
<p>2. 友だちや保育者、地域の人々と親しみ、触れ合う中で社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・保育ボランティアさんと納涼ひろばやもちつきなどお手伝いいただき、園児と関わりを持つことが出来ている。また、発表会で使用する衣装や小道具などを作っていただき、観覧もしていただいた。職員も子どもたちも大変喜んでいて。 ・園見学の方や散歩中に出会う方に対しての気持ちの良い挨拶や適切な態度が身に付いていけるよう、保育者がモデリングとなって進んで挨拶をしたり対応する姿を子ども達に見せてい

		<p>る。また、職員間でも挨拶を交わしながら良い関係づくりに努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長児は、坂ノ市小学校の5年生と交流したり、1年生が手作り図鑑を贈呈してくれお礼に行ったり、交流を楽しんでいる。また就学に向けて職員同士の共通理解が重要となるので引き続き連携を取り、子どもたちの様子を伝えていく。 ・3～5歳児は佐野植物公園とアフリカンサファリへ社会見学に出かけた。公共の場での過ごし方を学びながら、楽しく過ごすことが出来たのはよかった。
<p>3. 地域の子育て支援の拠点としてのこども園の機能を活かし、子育ての喜びを共に感じ、保護者の自己決定を尊重して子どもの育ちを見守っていく関係を築いていく。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサークル『かんがるうはうす』では、いろいろな遊びの提供や親子クッキングなどをして、保護者や子ども同士の繋がりの仲立ちをしてきた。また、外部講師を招いて子育ての相談が出来るようにしたり、楽しく子育てができるサポートをすることができている。 ・地域の方へ子育て通信『あおむしくん』は3回発行し回覧している。3月に最終号を出す予定である。 ・保育参観は保護者1名とし、併せて給食の試食会もしてアンケートにより意見を頂くことが出来た。発表会は指定席2名とし、自由席も設け感染症対策を講じて開催できた。衣装づくりなどでお世話になった保育ボランティアさんにも観てもらうこともでき、子ども達も職員も感謝している。
<p>4. 小学校や支援施設や他の関連機関との連携を図り、情報共有及び相互理解を図る。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・幼保小連絡会議や坂中校区ネットワーク会議も随時開催されている。今年度は、坂ノ市小学校の5年生との交流が2回持つことができ、一緒に遊んだり、教室にいたり、教員とも子どもの様子を伝達したりと連携が取れている。今後も連携を取り相互理解に努めていく。 ・他の小学校は、親子で見学ができ、子どもの様子については別の日に伝達をして連携を取っている。 ・療育支援施設の方とは話し合いや対象園児の様子を見学する為来園してくれる機会を持つことが出来ている。園に登園してから、療育機関の送迎による通所の子どもも増えていて、今後も繋がりを大切にし、保護者と関連機関と連携を取りながら取り組んでいきたい。
<p>5. 園内研修において、各クラス年間のテーマや目標を定め、年間計画を作成して1年を通して実践し、各クラス担任が主体的に取り組んでいく保育を園全体で共有し、実践方法や内容においての気づきを学び合っていく。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も園内研修のテーマは各クラスで考え、年間を通して活動を行っていき、見せ合う保育で振り返りができたり、園内研修で話し合ったりし、職員全体で学び合うことができている。今年度より午睡時に研修を行うことにより、研修内容が濃いものとなり、その他の業務を効率的に行うことができている。限られて時間の中で充実した研修をすることの難しさも感じている。 ・食育教室と併せて『モグモグマスター』の活動に取り組み、クッキング職員が手作りの食育教材を用意し、より子どもたちが食材に興味を持ったり、食べることの大切さを知ったりできるようにしてたが、職員が不足したことで一時お休みとしたが、

		再開のめどはついているので、今後も工夫しながら取り組んでいく。
--	--	---------------------------------

4. 今後取り組むべき課題

- ・職員に関するヒヤリハットも少なからずあったので、一人ひとりの意識を高くもてるように、改めて職員間の連携の在り方を考えていく。例えば、若い先生に年齢の近い先輩職員を指導係としてつけたり、何でも相談できる関係性をつくれるようにしていき、一人ひとりの質の向上を図っていく。
- ・子どもたちのけがやトラブルもヒヤリハットに上がってくる。足腰が弱かったり、体幹が弱かったり、自分の思いを言葉で言えなかったり、我慢をすることができない子どももいる。発達年齢により違いはあるが、職員はいろいろな遊びを通して丈夫な身体を作ったり、いろいろな経験を通して自分の思いを表出したり、言葉で言えるように、子どもの気持ちを受け止めたり聴いたりし、相手の気持ちにも気づいていけるような働きかけをしていくように努めていく。
- ・日常生活の中で、自分のことを大事にし、友だちのことも大事にできるように、職員が仲立ちをしたり、一人ひとりの気持ちに寄り添い行動を見守っていけるようにしていく。その中で社会性や協同性が育ち合うように努めていく。
- ・地域の施設を利用して避難訓練をしたり、施設訪問をしたり、行事にご招待したりして触れ合いや交流をしている。地域の中の保育施設であり、これからも地域の子育て世代の相談や交流の場となるように工夫をし継続していく。
- ・これからは更に小学校と連携を図りながら、子どもの様子を伝えたり、交流を持ったりして、安心して小学校に行けるようにしていく。
- ・園内研修や会議を午睡中にしている。その短時間で効率よく会を進めていけるようにテーマを予め決め、毎回意見交換などができている。更に職員一人ひとりの意識や資質が向上していけるように、来年度の研修の在り方を考え自己研鑽をしていく。

5. 具体的な目標や計画の総合的評価

結果	評価
A	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー検査をしていない事例もありましたが、検査は絶対にした方がいいので、情報提供をして勧めてください。低年齢児ほど気を付けなければいけないので、今後も対策をしっかりしてほしい。 ・子どもたちに「書くこと」を教えることはありがたい。 ・目標、取り組み状況を見ると、一生懸命にやっているとと思います。前進していると思います、高評価です。 ・これからも、子どものためによりしくお願いします。

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが成果が十分ではない
D	取り組みが不十分である